

【ルーマニア浪漫紀行（17）】爆発に耐える モーター、アンチエイジング水… 先進技術を日本市場へ

ルーマニアの首都ブカレスト市西郊ティミショアラ通りに展開する工業団地に招かれ、2つの会社を視察しました。

電動モーター大手ウメツ社と重水素除去水を販売するメクロシステム社です。



防爆モーター大手 UMEB 社の
ゲオルゲ CEO と

創業80年の歴史を誇るウメツ社は、どんなに苛烈な状況でも決して壊れない頑強な電動機器（爆発に耐えるモーター）をオーダーメイド生産してきました。戦前、欧州最大の原油生産地であったルーマニアは近代初期から石油関連施設が展開し、たとえ爆発しても損傷しない強固な電動システムが研究・開発されたのです。

同社製品のプロトタイプはフランスの技術を基盤に開発されたとのことですが、ドイツの技術も宿しながら、戦後は中東の石油関連コンビナートやオイル・リグの動力中枢を担う世界最強の電動機器を生産・供給し続けてきました。欧米や日本のマザーマシンの動力源にも広く応用されています。

戦前はルーマニア軍需産業の基幹を担い、戦後もミグ戦闘機など軍需も多かったようですが、1989年暮れのチャウシェスク政権崩壊後、米国の意向で軍需部門は撤廃されてしまったとのこと。わが国の優れた航空産業が終戦でいったん白紙撤回せられた経緯が彷彿とされます。

本連載初回でも触れましたが、世界最初の実用ジェットエンジンを開発したのはルーマニアのアンリ・コアンダで、現在の首都国際空港にその名が冠されています。ジェットエンジンは大戦末期ドイツの戦闘機「メッサーシュミット Me 262」に実現され、日本海軍の伊号潜水艦でその設計図が（2隻のうち1隻は撃沈され不完全なまま）もたらされ試作戦闘機「秋水」となりました。ルーマニアに1945年時点では日本を上回る革新的技術があった事実はもっと注目されるべきでしょう。

二つ目のメクロシステム社は本来、精密測定機器メーカーですが、2000年に水の重水部分（水素の重い同位体である重水素）を低減する技術を確認し、同年ロンドン国際発明展金賞を受賞。以来、「クラリヴィア」というアンチエイジング水（重水素低減水）を販売してきました。



重水素軽減水 Qlaravia の
ムルディン CEO と

本商品は01年にジュネーブ国際発明サロン金賞、07年にブリュッセル国際ユーレカ・サロン金賞に輝き、欧州連合（EU）では有名な健康サブリ水になっています。重水素を取り除くと、代謝を通じて細胞分裂を遅める著効が現れます。それによって、アンチエイジング効果、うつ軽減効果（セロトニンの再取り込み阻害効果）、また腫瘍の分裂も抑制されます。目下、医薬品認証をめざしてはいないのですが、欧米や中国で相当量の実証データが蓄積されているようです。認知症への効果を質問したのですが、まだ研究していないそうです。日本市場への普及はまだこれからであり、そのご縁をお手伝いします。

チャウシェスク元大統領が国家事業としてアナ・アスラン博士らに開発させたアンチエイジング療法ジェロピタルは世界的に有名で、その派性化粧品もヨーロッパのヒット商品です。近代化＝軍国主義で、遅効性の漢方（＝日本伝統医療）を不用意に切り捨ててしまい、現在に至るも主流医療（いわゆる西洋医学）との溝を埋め切れていないのが日本医療界の問題ですが、ルーマニアはじめ欧州諸国では両者（主流医療と補完医療）はずっとなだらかな統合を維持しています。すなわち、ルーマニアは「統合医療大国」でもあるのです。私が13年従事してきたNPO統合厚生協会（免疫療法懇談会）のご縁を活用して、わが国との協力・交流・連携を深めていきたいと思っています。



昨年、チャウシェスク独裁政権崩壊から四半世紀を迎えた東欧ルーマニア。革命後に長期の混乱を経ながらも近年は堅実な経済成長を続けている。同国と日本の交流促進に取り組む在日本ルーマニア商工会議所の酒生文弥会頭が、現地視察の様子をレポートする。

【プロフィール】酒生文弥

さこう・ふみや 昭和31（1956）年、福井生まれ。早稲田大卒、米カリフォルニア大サンタバーバラ校などに留学。酒生国際渉外事務所代表、浄土真宗本願寺派眞照寺住職。妻はルーマニア・ブカレスト出身。

【ルーマニア浪漫紀行（18）】

ごみ処理に立体駐車場整備…日本企業の参加を熱望

地域開発や国策に関わるご縁を得ました。午前中はブカレスト市第2区の清掃、除雪、廃棄物処理を一手に担当するスーパーコム社、午後にはブカレスト市幹部と市街再開発事業、そして夕方はルーマニア最大の石油会社OMVペトロム本社で幹部と相次いで懇談させていただきました。

ブカレスト市は6区から成りますが、スーパーコムなど5社がほぼ1区ずつ（1社だけ2区）ごみ回収と冬季の除



スーパーコム社 CEO、幹部と

雪作業にあたっています。うち1社はドイツ系で半分市営ですが、他はすべてルーマニア資本の私企業です。

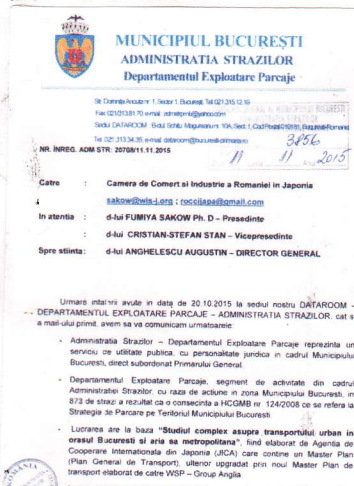
スーパーコムはチウクレアとブブ両家のファミリービジネスとのこと。1600人の従業員が第2区の除雪、清掃、ごみ回収に従事し年間3800万ユーロ（約50億円）を売り上げています。除雪は市の委託事業、ごみ回収と清掃は受益者の私的な負担で行われています。IMW（廃棄物統合管理）が徹底した近代的廃棄物処理管理が実践されています。

スーパーコム社は10月に今年度最優秀企業賞を受賞したばかりだそうです。同社は事業の更なる最新化と拡大を計画していて、日本の廃棄物会社との提携・合併および資本参加を切望しています。会議所としてパートナー探しをお手伝いします。

お昼過ぎ、かつて王宮の庭園であったヘラクレイトス公園内の瀟洒な洋館でブカレスト市の再開発担当幹部と懇談。まず日本の優れた立体駐車場を導入することから市内公共物の本格的な設備近代化を図りたいので、日本商社に参加してほしい旨を力説されました。

ブカレスト市内の駐車現況は混沌としていて、車両は公道の両側にずらっと駐車し放題になっています。罰則もあまりないようで、ある意味鷹揚なのですが、通勤時のひどい渋滞の大きな原因になって

います。公営・私営の駐車場を整備することから公有地の再開発と最適活用をめざすマスタープランがJICAの協力ですでにまとめられていて、公開入札ではあります



ブカレスト市からの正式協力要請書

が、ぜひとも日本企業に参画してほしいとの強い要請を受けました。EU構造基金などの有効な活用をうまく図ることが肝要と認められますが、これも会議所が仲立ちすることになりました。

そのあと、市郊外に展開するOMVペトロム本社を訪問。先日シギショアラへの途上、整然と広がるプロイエシュティ市を通り、往年の石油大国ルーマニアを実感したばかりです。プロイエシュティ油田は第2次大戦中ナチスドイツのソ連進軍を支え、またスターリングラード敗退のあとは赤軍が真先に占領した要衝でした。石油化学大学キャンパスにも立ち寄りましたが、本社はさすがに巨大で近代的なビルディング群。ペトロム・シティーと呼ばれるだけの威容を誇っています。

セリスキー常務は居合を鍛錬する親日家で、村上春樹作品を英語とルーマニア語で愛読しておられるとのこと。私も宗教学を研究していた頃ルーマニアの宗教学者ミルチャ・エリアーデを日本語で読んだ話を返して意気投合しました。



ルーマニアの首都ブカレストで、石油会社「OMVペトロム」の幹部らと懇談する酒生文弥氏(左)

自然エネルギーやハイブリッド・電気自動車の普及する現状をしっかりと把握しておられ、石油業界の長期的斜陽を見据えて経営されているようでした。弊会議所には日本の石油業関連ハイテクの情報収集支援を一番期待しておられ、スポット取引とともに大いに協力することを約束しました。



昨年、チャウシェスク独裁政権崩壊から四半世紀を迎えた東欧ルーマニア。革命後に長期の混乱を経ながらも近年は堅実な経済成長を続けている。同国と日本の交流促進に取り組む在日本ルーマニア商工会議所の酒生文弥会頭が、現地視察の様子をレポートする。

【プロフィール】酒生文弥

さこう・ふみや 昭和31(1956)年、福井生まれ。早稲田大卒、米カリフォルニア大サンタバーバラ校などに留学。酒生国際渉外事務所代表、浄土真宗本願寺派眞照寺住職。妻はルーマニア・ブカレスト出身。

【ルーマニア浪漫紀行（19）完】

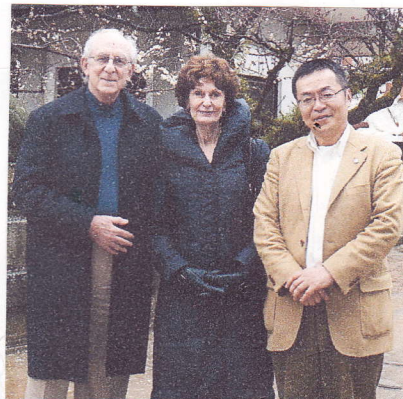
東洋・西洋融合の医療センター設立を夢見て



高木保之副会頭（右から2人目）

私たちが在日本ルーマニア商工会議所のカウンターパートである在ルーマニア日本商工会議所の副会頭を務める高木保之さんは、ルーマニア経済界で18年も活躍されているベテランです。日本で脱サラし米国でもビジネスされていたとのことですが、18年ほど前に奥様とともにルーマニアに渡航され、私有財産への移行業務コンサルタントや不動産業などで成功されました。すっかり日本系ルーマニア市民になっておられ、今回も随分お世話になっています。

懇親を深める中、私が13年来取り組んできた「統合医療」に関心を抱いておられ、意気投合しました。ブカレスト市北駅最寄のホテル脇に土地を所有されており、そこに来年度施工を目標に「統合医療クリニック」を創設する事業プランを温めておられます。



米国統合医療の最高権威キャサレス先生とMSKCC 統合医療セラピスト達

統合医療とは、主流医療（近代西洋医学）に補完医療（鍼、マッサージ、心身療法、サプリメントなど）を組み合わせたもので、いわば西洋的な科学的医療と東洋的な経験的医療の相補的な合体です。私は1985年、宗教学を学んでいたカリフォルニア大学サンタバーバラ校でダライラマ法王のご講演「西洋の科学と東洋の智慧の結婚」をお聴きして以来ずっと実現を念じてきました。2003年、がん免疫療法の先駆的権威・蓮見賢一郎先生からNPOの理事長職を拝命してから、とりわけ医療における東西融合に関わってきました。

欧米からの統合医療の実践的なNPO顧問にバリー・キャサレス米国スローン・ケタリング記念がんセンター統合医療事業部長を、わが国漢方医療の現代的な実証と啓発には渡辺賢治慶応大学医学部漢方医学センター長を、それぞれ仰いでいます。高木さんの構想を結実させることから、ブカレスト大学、コンスタンツァ大学、トゥルグ・ムレシュ大学など優れた医学部をもつ大学と日本の研究・医療機関を結んで、ルーマニアに東西融合の医療センターをつくることを夢見ています。

【ルーマニア浪漫紀行(19)完】東洋・西洋融合の医療センター設立を夢見て

B N C T (ホウ素中性子捕捉療法) やがん免疫療法などの医療分野、あらゆる機器をインターネットに接続する「モノのインターネット (I o T)」などのIT分野、そしてグリーン農業・クリーンエネルギー。こうした近未来技術でルーマニアと日本が協働していくことで、世界をドラマ提唱の本物の文明へと導く「文明の転轍手」の役目を果たせるのではないのでしょうか。

振り返れば実に多くの出会いとご縁に恵まれた浪漫と実りに満ちた旅でした。

弊会議所に対する要望の概要は、(1) 市場参入・製品販売支援 (2) 日本企業との合併・提携支援 (3) 日本からの投資促進支援 (自社売却も含む) の3つに整理できます。ひとつずつ具体的な成果をあげていきたいと念じます。

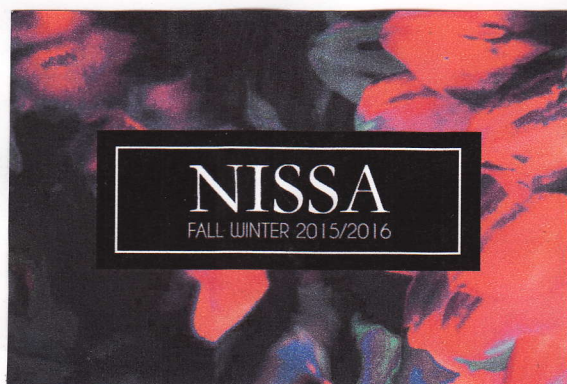
来年は、3月にルーマニア国会日本友好議連が来日を計画、同時期をめぐりに伝統スポーツのオイナ連盟も来日を計画中です。4月下旬にはN i s s aグループが大阪と東京でファッションイベント開催予定で、秋に向けてアンテナショップ開設も動き出します。

次回のルーマニア公式視察も5月上旬～中旬をめぐりに準備が始まっています。日本を敬愛してくれる多くの国民と豊かな資源・可能性に満ちた国ルーマニアへ、ビジネスを踏まえた浪漫の旅。みなさまの奮ってのご参加、心待ちにいたしております。ご愛読、ありがとうございました。



昨年、チャウシェスク独裁政権崩壊から四半世紀を迎えた東欧ルーマニア。同国と日本の交流促進に取り組む在日本ルーマニア商工会議所の酒生文弥会頭が、現地視察の様子を19回にわたってレポートした。

【プロフィール】酒生文弥 (さこう・ふみや) 昭和31 (1956) 年、福井生まれ。早稲田大卒、米カリフォルニア大サンタバーバラ校などに留学。酒生国際渉外事務所代表、浄土真宗本願寺派眞照寺住職。妻はルーマニア・ブカレスト出身。



本春より日本に
本格進出する
Nissa 等ファイン
アソシエーション
グループ7社